

# 2022年度トピックス

## 2022年6月『Fukoku Friendly Forest』を開設

内幸町本社ビル1階エントランスロビーに、当社イメージキャラクターでもあるサンリオの人気キャラクター「ハローキティ」のほか、たくさんのサンリオキャラクターがデザインされた「世にも!?かわいい待合スペース Fukoku Friendly Forest」を開設しました。



Fukoku Friendly Forest

## 7月 第100回定時総代会にて個人保険分野について10年連続となる増配を決議

2021年度決算において、個人保険分野では、死亡保障性特約および医療保険の配当率を引き上げるとともに、就業不能保障特約について危険差配当を新設しました。増配額は約2億円、増配件数は約140万件。今後も配当還元の実現を通じて、お客さまの実質的な保険料負担の軽減を図ってまいります。

## 2023年1月 新コーポレートメッセージの策定

新コーポレートメッセージ「人と人の間に」を策定しました。詳細は16ページをご覧ください。



## 3月 日本モルック協会とのトップパートナー契約を締結

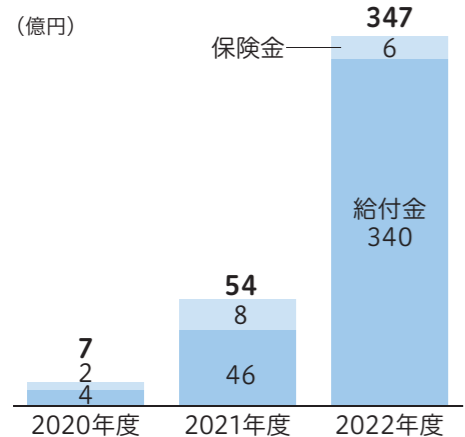
フィンランド発祥のモルックは年齢や健康状態に関わらず誰でも一緒にできるスポーツです。一般社団法人日本モルック協会は、大会やイベントの企画運営を通じ、モルックを福祉や教育、地域活性化に役立てる活動を実践しています。このような同協会の取組みに大いに賛同し、当社はトップパートナーとなりました。



調印式の様子  
左から日本モルック協会 八ツ賀代表理事、ハローキティ、米山社長

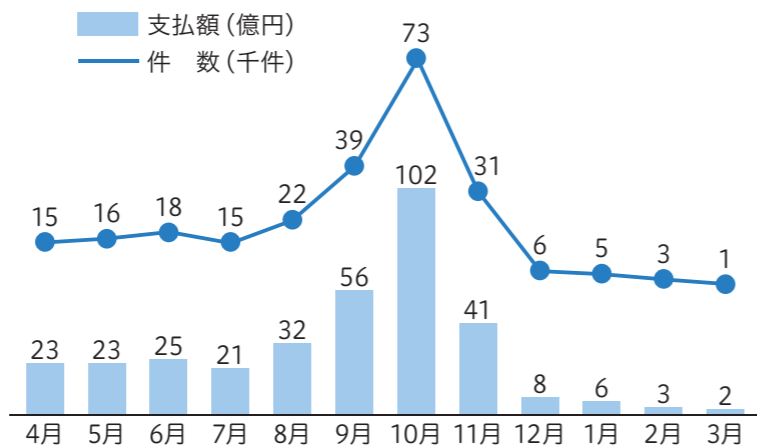
## 新型コロナウイルス感染拡大に係る給付金等の状況

### 新型コロナに係る給付金等の支払額 (フコク生命単体)



◆2022年度の新型コロナに係る給付金等の支払額は347億円と、前年度と比べ大幅に増加しました。

### 2022年度の新型コロナに係る給付金等の月別件数・支払額 (フコク生命単体)



◆2022年度の新型コロナに係る給付金等は、第7波の影響により、8月～11月のお支払いが全体の約7割を占めました。  
◆2022年9月26日以降、「みなし入院」による入院給付金等のお支払い\*の対象を重症化リスクの高い方のみに変更したことにより、その後の支払額は減少しました。

\*5類移行にともない、「みなし入院」による特例支払いを終了

# 決算の概要

フコク生命グループの業績(フコク生命・フコクしんらい生命合算)

## 新契約 (個人保険 + 個人年金保険)

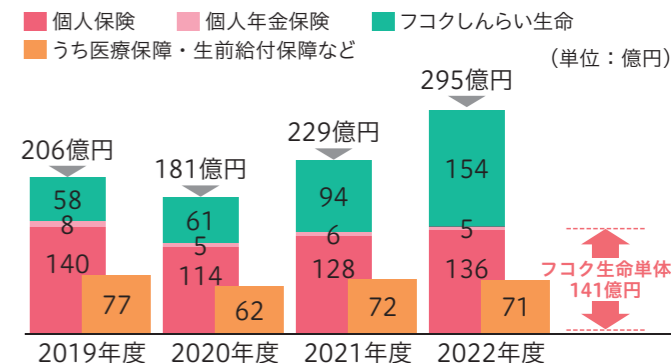
### ■新契約年換算保険料

**295億円** (フコク生命単体：141億円)

新契約年換算保険料は、前年度比28.6%増の295億円となりました。コロナ禍前(2019年度)の水準を上回り、2年連続で大幅に増加しております。

#### ■年換算保険料とは?

月払、年払、一時払などの払込方法や払込期間の違いを調整し、保険料を契約期間中に平均して支払うと仮定した場合に、生命保険会社が保険契約から1年間にどれだけの保険料収入を得ているかを示す指標です。



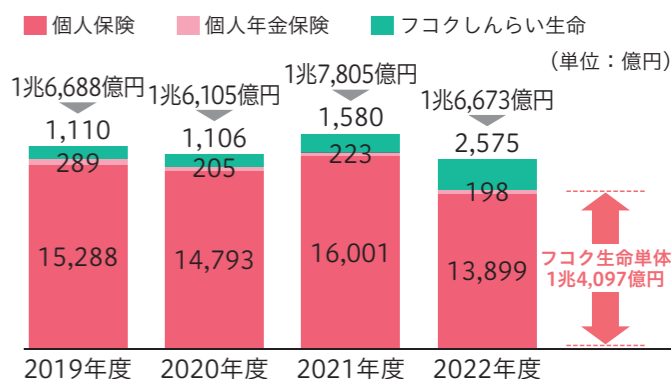
### ■新契約高

**1兆6,673億円** (フコク生命単体：1兆4,097億円)

新契約高は、前年度比6.4%減の1兆6,673億円となりました。新医療保険の発売やコロナ禍における医療保障への選好の高まりにより、販売実績が医療保険にシフトしたことが主な要因です。

#### ■契約高とは?

生命保険会社が保障する金額の総合計額です。



## 解約・失効 (個人保険 + 個人年金保険)

### ■解約・失効年換算保険料

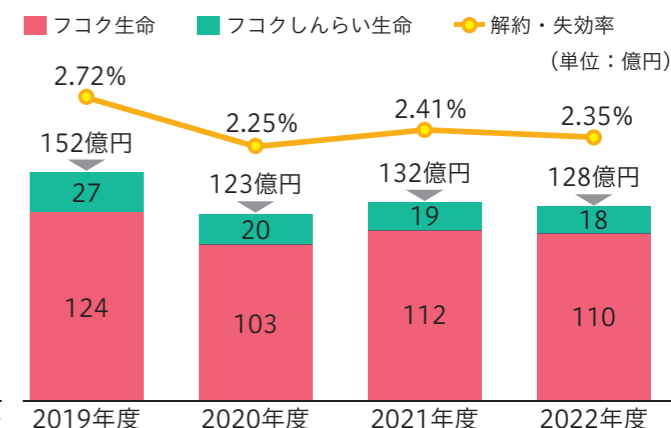
**128億円** (フコク生命単体：110億円)

### ■解約・失効率 (年換算保険料ベース)

**2.35%** (フコク生命単体：2.97%)

解約・失効年換算保険料は、前年度比2.8%減の128億円となりました。解約・失効率は2.35%と前年度比で改善しており、コロナ禍前と比べ良好な水準を継続しております。

$$\text{解約・失効率(年換算保険料ベース)} = \frac{\text{解約・失効年換算保険料}}{\text{年度始の保有契約年換算保険料}}$$



### ■解約・失効高

**1兆1,532億円** (フコク生命単体：1兆1,064億円)

### ■解約・失効率 (保険金額ベース)

**4.30%** (フコク生命単体：4.49%)

解約・失効高は、前年度比1.6%減の1兆1,532億円となりました。解約・失効率は4.30%と前年度比で改善しており、コロナ禍前と比べ良好な水準を継続しております。

$$\text{解約・失効率(保険金額ベース)} = \frac{\text{解約・失効高}}{\text{年度始の保有契約高}}$$

